

## 議 事 録

会議名	釧路市障がい者自立支援協議会 第1回相談支援部会	
事務局	釧路市障がい福祉課 釧路市障がい者基幹相談支援センター	
開催日時	令和5年6月20日(火) 15:00~17:00	
開催場所	釧路市役所 防災庁舎5階 会議室A・B	
出席者	部会員	佐々木部会長(ソーシャルカフェ) 早川副部会長(ハート釧路) 竹内副部会長(つばさ) 森島副部会長(自立センター) 打川協力員(りりーふ) 平間協力員(わんだふる) 宮崎協力員(ケアサポ) 葛野協力員(のおと) 土田氏(鶴が丘) 田口氏(あ〜かす) 町田氏(えんじん) 高岡氏(りーる) 道下氏(みち) 大峠氏(そよかぜ) 竹谷氏・大塚氏(自立センター) 高野氏(のおと) 森山氏(にじ) 下山氏(児童発達支援センター) 大木氏・倉野氏(いんくる) 二瓶氏・妹尾氏(いつ歩) 佐藤氏(ういずけー) 清水氏(のんの) 八木沢氏・金子氏・鴨川氏(結) 春木氏(ウルカス) 山本(いまじん) 計30名
	その他	なし
	傍聴者	なし
	事務局	障がい福祉課 辻野氏、若園氏、船坂氏、須藤氏 障がい者基幹相談支援センター 柿沼氏、林氏 計6名
会議次第	<p>1, 挨拶 相談支援部会長 佐々木 寛</p> <p>2, 議事 (1) 今年度の活動スケジュール (2) 第7期障がい福祉計画・第3期障がい児計画について (3) その他</p> <p>3, 閉会</p>	

## 1. 挨拶

相談支援部会部会長 佐々木 寛

## 2. 議事

司会進行 相談支援部会副部会長 早川 博司

### (1) 今年度の活動計画の説明……竹内副部会長

※別紙参照 令和5年度釧路市障がい者自立支援協議会 相談支援部会 活動計画

令和4年度の部会で提案のあった部会協力員について今年度も新規の事業所を除き各事業所へ電話にてお話をさせていただき、今年度は5名の方が部会協力員としてお手伝いいただけることになった。

今年度1年間の部会のテーマを「地域で暮らす」という大きなテーマを掲げており、内容については記載されている通りとなる。この活動計画等に何か質問等ある方は部会閉会后あるいは後日対応しますので、ご連絡下さい。

### (2) 第7期障がい者福祉計画、第3期障がい児福祉に関する来年度以降の福祉計画について検討、提案していくためのグループワークを行う。

他の専門部会でも行うが、相談部会でも資料を参考に検討し、まとめたものを提出することになる。先日、各事業所メールで配布した「活動指標シート」(資料4)の下段、平成19年から記載のある数字をもとに、上段1と2の枠内にある活動指標を土台に、令和6年度以降この数字が妥当であるかどうか各グループで意見を出し合いまとめていただく。

※資料とは別に現在の相談支援専門員の数について割り出した内容を簡単に説明。(基幹柿沼氏)

各テーブル配布済みの資料を参照。

令和元年から令和5年までのそれぞれの相談支援事業所に配置されている相談支援専門員の数を障がい児、障がい者に分けて記載している。活動指標シートに関わる数字を検討するにあたり参考とするため簡単に説明する。

令和元年度の計画相談の者の実績数が2534人(お手元の資料4に記載)

2534人÷相談支援専門員38人=1人当たり66.7人担当という結果。

同様に障がい児では1人当たり28.2人が令和元年度の実績となる。令和2年度以降の数字の読み上げは割愛する)。

令和5年度の見込み数は2994とあるが令和5年度の相談支援専門員の数で割り返すと3408人くらいの見込み。同様に障がい児の1012人を相談支援専門員の数で割返すと1201人となり活動指標の数字よりももう少し多くなる見込み。このような見方ができるため相談支援専門員の人数も参考に検討していただきたい。

○各資料の説明終了、質問受付。

・佐々木部会長           セルフプランの数字は組み込まれているのか？

・柿沼氏回答            計画相談と障がい児支援の数のためセルフプランの人数は入っていない。

・佐々木部会長           数は少ないがセルフプランは立てない方針が釧路市にあるので、今回の数字に出ないものもあるということですね。以上。

・早川副部会長より作業について説明

質問にあった内容のことや部会員から数字を出すうえで、他にも「こういうのはどうだろうか」、「●●●はよかったね」などあるかもしれないので実際の数字にどのくらい反映できるか、事実上大雑把な数字ではあるが見込みの数は必要。もうひとつは、この数字に隠された意味が必ずあるので、せっかくの機会なので皆さんの意見をまとめて数字と一緒に市へ提出する形にしたい。

5つのグループ毎にファシリテーターがいるので、16時まで各テーブルで作業をお願いします。

1G・・・土田氏、大峠氏、下山氏、佐藤氏、春木氏、打川氏、若園氏

2G・・・田口氏、竹谷氏、大木氏、清水氏、葛野氏、竹内氏、須藤氏

3G・・・町田氏、大塚氏、倉野氏、八木沢氏、宮崎氏、森島氏、柿沼氏

4G・・・高岡氏、高野氏、二瓶氏、金子氏、平間氏、辻野氏、林氏

5G・・・道下氏、森山氏、妹尾氏、鴨川氏、船坂氏、山本

○幾つかのグループのまとめたものを発表

5G・・・釧路市の人口減少しているにも関わらず、障がい福祉サービスを利用する数が反比例しており増加傾向。

児童は体感として低年齢化が進んでいると思われ実際に判定書の年齢が未就学児で増加。

また小中学校の統廃合が進んでいるが、サービス利用の児童は増加。児の場合、診断の裏には家族の課題があるかもしれない。

ほか色々な話がでておりまとまっていません。

1G・・・これからは利用者の高齢化、低年齢化があり数は増えていだろう。児童の方では妥当と思うが障がい児が者に移っていくことや介護保険に移行される場合もあることから結果サービスによってはそのままの数字になる場合もあると思われるため妥当な数字なのではないか。

3G・・・相談支援専門員の人数と相談支援の受けている数を割ったらこのくらいの数字ですよという部分では、大体妥当なのではないかという意見。  
ただその中で質やケア等のところがどうなっていくだろうかという部分も話に出ていた。地域移行や定着の数の少ないことに関しては拠点事業との絡みもあるのではという意見もある。実績が少ない中でこの事業がどう変わっていくのかということ話し合っていく機会がないと、この数字が変わっていかない。他の事業も創だと思う。数字が変わっていくかどうかは、その事業毎に今何を求められていて地域の中でどんなニーズがあるのかと擦り合わせていくことを考えていくとか、市役所でアンケートをとってくれていのであれば、そこを見ないと話し合えないかなという意見があった。

4G・・・事業所がどんどん増えて行っているので示されている数字でいいのではないか。放課後等デイサービスや就労支援とか事業者がふえているので、その事業所も生き残っていかないといけない、飯を食っていかないと行けないので、友達を呼んで修正根拠を持つ人をどんどん増やしていった保証をもらっていかないといけないので、そう言ったことから見ても数字は妥当。  
相談員の数はそんなに増えていない。令和5年を見ると48人で急に増えたように見えるが〇〇が増えているだけなので釧路市もセルフプランをもう少し活用してはどうかという話があった。

2G・・・各班で出てきた内容と同じ話が出ていた。それ以外では、かなり対象が多様化していきしたので、それに応じてどのような形で関わっていけばよいのという話やひきこもりの問題やこれからの相談員の役割というものもどんどん増えていこうという話が出ていた。相談員に人数のところではまとまりのない話になりますが、人口は減っていく割にはサービスに繋がっていたり、対象の方がどんどん増えていくのでそこはケースバイケースなのだろうというような話もでていた。

#### 早川副部長

皆さんからいろいろご意見いただき、ありがとうございました。

今後これらを集約させていただいて、本日中に書類を作成して市へ提出いたしますので、役員の方あるいはファシリの方は各グループの書類を預かって下さい。皆さんから何かご意見などありますか。後日でもかまいませんので、何かありましたら役員のほうまでお知らせください。

#### (3) その他

市からの連絡事項はありません。

#### 3. 閉会

これを持ちまして第1回障がい者自立支援協議会相談支援部会を終了します。

